

放送教育だより

全通研 放送教育研究委員会 平成 27 年 1 月 31 日発行

◆地区通研より

○東北・北海道地区

期日：平成 26 年 10 月 30 日(木)・31 日(金)

会場：ホテル東日本盛岡

①報告及び研究協議

②研究発表

発表者：秋田県立秋田明德館高等学校 教諭：阿部 正洋

テーマ：「本校における放送教育・視聴覚教育の取り組み」

※本研究は、平成 25-26 年度放送教育研究委嘱校としての取り組みである。

①地区通研としての平成 26 年度活動方針は、数年間同じテーマで以下の二つとしている。

- ・放送利用に対する教員個々の関心を高め、校内体制の確立を図る。
- ・eラーニングについての研究を進め、導入を模索する。

研究協議では、平成 25 年度および 26 年度前半における各校の放送視聴票提出数、および放送視聴利用の現状と課題等が報告された。高校講座の放送視聴表提出数は、ほぼ半数の学校で提出実績があったが、スクーリング重視のため放送視聴利用者がいない学校も相当数あり、今後の環境整備等が必要であると考えられる。また、WEB学習での対応を増加させていく(クラーク記念国際)、学校の将来像を探るため校内に中期ビジョン検討委員会を設置し協議を進めている、レポート作成を支援するため、教科の学習内容をホームページ上に掲載する、eラーニング体制の初期段階の整備と充実化を検討中である(美田園)等の報告が各校からあげられた。NHKへの質問・要望としては、旧課程科目をホームページ上にアーカイブという形で残してほしいなどがあった。NHK側からは、ぜひそれを全通研からの要望事項としてあげ続けて欲しいとのお話があった。

②放送教育利用者へのアンケートを実施し、現状を調査したところ、利用者の割合は全体の1～2割程度ではあったが、利用者の87%が、番組の内容に肯定的な回答をしている。また、インターネット接続環境を満たしている生徒の割合は9割以上であることが判明した。そこで現状から、次の3点を方策として研究に取り組んだ。

(1)放送視聴環境の改善

校内規定を改定し、高校講座のライブラリー放送なども利用できるように「特別放送視聴」を加えることで、セーフティネットとしての役割を強めることができた。

(2)自学自習を促進する手段としてのNHK高校講座の 利用促進

教員のモニタリングを実施し、特に面白かった番組を抽出し、「おすすめの放送」として放送教育通信に加える。さらに、学校ホームページ上に特設ページを作成し、おすすめの番組の「キーワード」を表記したところ、放送内容の興味を引くという点で非常に効果的であることが分かった。

(3)遠隔地における双方向の学習環境の検討

インターネット回線を使用した動画によるコミュニケーションツールとして「Google+」を使用し、進路指導面接対策等に利用してみたところ、いくつかの問題はあるが、実現可能性は十分あることが分かった。



(文責：放送教育研究委員 金塚 省吾)

○中部地区

期 日：平成 26 年 9 月 18 日（木） 会 場：ホテルグランヴェール岐山（岐阜県岐阜市）

発表者

- ①富山県立雄峰高等学校 教諭 舘 光太郎
②愛知県立旭陵高等学校 教諭 石川 伸明

テーマ

①放送教育へのアプローチ～通信教育の方向性～

今回の研究実践は、「数学Ⅰ」「数学入門」のレポートにNHK高校講座の内容を取り込むことと、「科学と人間生活」のスクーリングにNHK高校講座を取り入れ演示実験や課題研究の実例として利用するという二つの実践例が中心で、それぞれアンケートによる効果の検証も行われました。

数学では、番組の内容をレポートに取り込むことが生徒の視聴のきっかけづくりに有効だったとのこと。また、科学と人間生活では、スクーリングの中で「放送のすすめ」というプリントを併用しながら高校講座を視聴させることにより、学習の理解が深まるよう図ったり、生徒の興味を引くことができたりしたとのことでした。アンケートにより効果の検証も行われており、他校でも実施可能な実践であるという印象を受けました。

②「放送その他の多様なメディアを利用した指導」

（高等学校通信教育規定第2条第2項）における著作権法上の問題

こちらの研究では、平成 16 年の高等学校通信教育規定の改正を受け、インターネットを活用しての指導が行えるようになったものの、それがまだ十分活用されるに至っていない原因の一つに著作権法の問題があるとし、その条文の改正により、通信制高校の現場でのインターネットなど「多様なメディア」の積極的な活用につなげようというものでした。研究では、著作権法の条文を丁寧に読み込み、通信制高校における指導の現状からその問題点を「複製」「公衆送信」などの用語に基づき分析し、条文をどのように改正すればその問題点が解消できるかを提言としてまとめていました。とても地道な研究である一方で、通信制高校における指導の可能性を広げていく上でもとても重要な研究であるとの印象を受けました。

（文責：放送教育研究委員 岩瀬博文）

○近畿地区

期日 平成 26 年 9 月 26 日（金） 会場 ルビノ京都堀川

発表者：兵庫県立網干高等学校 教諭：三木 隆之

テーマ：「放送教材を活用した効果的なスクーリング指導」

網干高等学校は昭和 54 年全日制、定時制、通信制併置で開校し、平成 11 年通信制単独校になった比較的新しい学校である。在籍は約 900 名、女子が少し多い状況である。発表はNHK高校講座の積極的な紹介と活用についてであった。まず、月刊副教材「魚吹」やHPで紹介し、スクーリングでも紹介している。また、「ベーシック英語」と実際のレポートの対応表をHPにのせるなど、積極的に高校講座を活用している。英語科では 26 年度より電子教科書の使用が始まっている。発表は「英語入門」における活用状況を中心に行われた。従来型のスクーリングに比べて高校講座を利用した今年度の方がレポートの提出数が増えている。特に最初の 1 回目 2 回目はめざましい効果が見える。出席率は前年度に比べて回を追うごとに高くなっている。今年の 5 月にとったアンケートによると英語が好きですかと言う問に対し、どちらでもない嫌い合計 86%、好きが 14%。中学校の英語が理解できているかと言う問に対しては全く・ほとんど・あまり理解できていないが 77%、だいたい・すべて理解できているが 23%となっている。ほとんどの生徒が中学校の英語が理解できていないまま入学し、わからないから英語が好きではないという結果が見える。また、入学前に何らかの英語関係の番組を見たことがない生徒 85%。

ベーシック英語を自宅で視聴すればレポート作成に役立つと思った生徒が 81%いた。ネットにレポート対応の教材、練習問題があれば利用したい生徒は 66%いる。昨今のスマホ・タブレットの普及率を考えれば、教科の特性にもよるが、高校講座に限らず映像を利用した学習教材や問題演習が生徒には有効だといえる。今の生徒たちは「デジタルネイティブ」といわれ、彼らは映像的なものが先行する場合も多く、テキストも映像も同じように処理する。そのような「デジタルネイティブ」や多人数で多種多様な生徒に対応するためには黒板だけでは不十分である。「ベーシック英語」に沿って映像を流しつつ、しかるべきところで映像を止め、解説や問題をやる。このように映像を使って生徒の興味関心を喚起することが必要である

以上の発表を聞いて思ったのは、視覚に訴える必要性・重要性が自分が思っている以上に高いと言うことである。しかし、「見る」「聞く」から入ったとしても最後の到達点は「読む」「書く」であって欲しいと思う。
(文責：放送教育研究委員 太田恭子)

○中国地区

期日：平成 26 年 10 月 14 日（火）・15 日（水） 会場：鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館

2 日目の第 3 分科会「放送教育」では、次のような各校へのアンケート結果をもとに、7 校で情報交換が行われました。

- ① インターネットでのNHK放送視聴の利用の促進を面接（授業）の中で取り入れる工夫について
- ② 放送視聴の施設や設備の整備状況について
- ③ 校内での放送視聴における面接指導及び報告課題作成に関する規定について
- ④ その他、課題や独自の取り組みについて

岡山県立操山高校では、登校できる生徒のための場所・時間を設定し、「校内視聴」をしている。また、山口県立山口高校では、平日学習会で、「ベーシックシリーズ（英数国）」など基礎を定着するために活用しているというお話がありました。

また、Wi-Fi などを使用してのオンデマンド配信の利用については、利用する側の教員のスキルも影響するという意見も出ました。

減免のための報告課題（視聴レポート）について、穴埋め方式だと友人の解答を写す生徒がいる。また、理解度チェックにしても教員それぞれがオリジナルを作らないと生徒同士情報が流れる場合がある。などの話も出ました。

並木学院福山高校からは、「社会と情報」の授業では、NHK 高校講座を何度も復習・反転学習に使っているというお話がありました。

番組を項目ごとに、何度も同じ内容を活用しているというお話もあり、まさにチャプター利用だと思いつながり聞いていました。

見ている生徒は、減免のために見ているわけではないという意見も出ました。

放送教育委員として、千葉大宮が面接代替の放送視聴ではなく、高校講座を積極的に利用するように促し、学力向上を含む成果があったという研究発表について紹介したところ、皆さんよく聞いてくださいました。

「NHK 高校講座以外の番組を授業で使ってもいいのか。」という質問に対して、「利益目的でなければ大丈夫です。」と NHK 制作局青少年・教育番組部チーフプロデューサーの若井俊一郎さん、NHK エデュケーショナルの北里京子さんが、答えて下さり、さらにスマホ対応になったことを始め、NHK の積極的な取り組みについて丁寧に説明してくださいました。

全員、活発に意見を述べ、全体を通して、有意義な情報交換会となりました。

(文責：放送教育研究委員 高橋 由美子)

○四国地区

期日：平成26年7月11日（金） 会場：徳島県教育会館（徳島市）

テーマ：「各校の放送教育・視聴覚教育に関する現状と課題」

研究協議会は、番組紹介（NHK）・意見交換、各校の現状と課題・意見交換、指導助言の内容で行われました。NHKの番組紹介では、高校講座をスクーリングの代替として使用するだけでなく、先生方のアイデアによって通信制で学ぶ生徒達の学習の動機付け・スクーリングのきっかけ作り・レポート学習の手助けとしてなど活用していただければありがたい、来年度に放送法の改定が行われるが、これから更に映像・音声教材で、活用しやすいものを提供していきたいので、現場の先生方のご意見・ご要望をお願いします、との話がありました。高校講座の番組を教員が編集できるようにして欲しいという要望に関しては、録画した番組なら自由に編集してかまわないとの回答がありました。また、高校講座の中の実験・資料映像・画像などのクリップ化ができればと考えているとの報告をNHK側からもらいました。

今回の研究協議は、参加10校がそれぞれの学校の放送・視聴覚教育の現状を発表し、つづいて自らの課題を挙げ、それらについて各校からの意見を求める、という形式で行われました。教科書・レポートに沿った視聴覚教材として、教科書DVD（CD）を利用して面接代替にしている学校が3校あることが報告されました。課題としては、著作権の問題や地デジ化したことによって視聴覚教材の編集が難しくなった。視聴して作成したレポートが、番組視聴の積極さに欠ける場合が少なからずあり、目を配り続ける必要があるなどの報告がありました。放送視聴を習熟度の低い生徒や学習習慣が身につけていない生徒に対して学習意欲を持たせる材料として活用しようと模索している学校もあり、情報交換の貴重な機会となりました。また、「出席時数免除のためではない」番組視聴を奨励しており、通年視聴を成し遂げた生徒を表彰している学校の報告があり、これにはNHK関係者の皆さんが感動していました。



（文責：放送教育研究委員 吉田 健）

○九州地区

日時：平成26年11月13日（木）・14日（金） 会場：大分市コンパルホール

発表者：宮崎県立宮崎東高等学校 教諭：伊藤 八州彦

テーマ：宮崎東高校の放送教育の現状及び今後について

<発表内容>

本校における放送視聴の実態を把握するため、生徒や職員へのアンケート調査を実施した。その結果を分析し、今後の放送視聴の効果的な指導の在り方を検証した。教師の65%が視聴しており、視聴した教師のほとんどが肯定的評価であった。しかし、視聴をもって面接指導の代替にすることは、その取り組みへの負担の大きさからそれほど肯定的とはいえない状況である。代替としての利用を積極的に勧めるのではなく、単元の内容の理解をより深めるために活用すべきとの指導方針は今後も継続する。

<コメント>4分の1の生徒がNHK高校講座を視聴したことがある回答であった。放送を視聴する理由として、「学習の理解を深める」、「興味のある内容であるから」などを挙げており、必ずしも減免を目的としていなかった。今後の放送教育への取り組みが期待される。

（文責：放送教育研究委員 渡部 儀隆）